

教皇メッセージ

「平和のための AI 倫理」会議参加者の皆さんへ

(広島、2024 年 7 月 9-10 日)

親愛なる友人の皆さんへ

私はこのメッセージを「平和のための AI 倫理」会議にご参加の皆さんへお送りします。人工知能と平和は極めて重要な二つの課題であり、G7 の会合でも政治指導者たちに次のように強く訴えました。「機械は、何らかの方法や新たな手法によって、アルゴリズムによる選択ができることを忘れてはなりません。機械は、明確に定義された基準または統計的推論に基づいて、いくつかの可能性の中から技術的な選択を行います。しかしながら、人間は選択するだけでなく、心の中で決断を下すことが可能です。決断とは、選択の中でもより戦略的な要素を含むものであり、現実的な評価が求められます。時には、統治という難しい任務の場では、多くの人に影響を及ぼすような決断を迫られることが多々あります。この点に関して、人間は常に知恵やギリシャ哲学のプロネーシス（補足注：古代ギリシャ哲学における概念で実践的な「知」を意味する）、そして少なくとも部分的には聖書の英知にまで思索を巡らせてきました。独自に選択する方法を知っているかのような機械のすごさに驚き、時には劇的で緊迫する局面に直面した場合でも、意思決定は常に人間に委ねられなければなりません。人々を機械の選択に頼るよう仕向けることで、自分自身や自分の人生について意思決定を下す能力を奪うならば、人類は希望のない未来に追いやられることになるでしょう。私たちは、人工知能のプログラムによる選択に対し、人間が適切にコントロールできる余地を確保し、それを守る必要があります。人間の尊厳そのものが、そのことにかかっているのです」（2024 年 6 月 14 日、G7 での演説）。

皆さんの取り組みを称賛するとともに、この新たな機械の時代に人間の尊厳を守るために団結し、主体的にコミットすることの重要性を世界に示すようお願いしたいと思います。

広島に参集して人工知能と平和について議論していただいたという事実は、非常に象徴的な意味を持っています。現在の紛争が世界中に影響を及ぼす中、戦争への憎しみなども含めて、この技術について耳にする機会がますます増えています。だからこそ、私は広島でのこのイベントが極めて重要なものと考えます。兄弟姉妹として連帯し、世界に対して「武力紛争が引き起こす悲劇に鑑み、いわゆる『自律型致死兵器』のような装置の開発と使用について再検討し、最終的にはその使用を禁止することが急務である」ということを思い起こさせることが非常に重要です。そのためには、これまで以上に大規模で適切な人間による制御が必要となり、効果的かつ具体的な取り組みを始めなければなりません。いかなる機械も、人間の命を奪うことを選択してはならないのです」（2024 年 6 月 14 日、G7 での演説）。

私たちが直面する問題の複雑さを考えると、人工知能の規制を検討する上で、民族や宗教の文化的豊かさがいかに手助けとなるかに気づくことが、技術革新を賢く管理しようとする皆さんの取り組みを成功させる鍵となるでしょう。

皆さんの集まりが友愛と協力という果実をもたらすことを願い、私たち一人ひとりが世界の平和の道具となりますように。

フランシスコ